

第IV章 合意形成や情報発信に向けた取組

第IV章 合意形成や情報発信に向けた取組

1. これまでの取組と今後の展開

過年度の取組を踏まえた今後の展開を以下に整理した。

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
検討 ステージ	行程計画（案） 作成	計画内容の具体化に向けた取組		
ターゲット・目的等	県民・市民へ中間取りまとめの内容を周知	計画づくりスタート） （戦略検討）	計画づくりに ついて 地権者・市民の意見聴取、気運醸成	計画づくりに ついて 地権者・市民の意見聴取、気運醸成
合意形成 意見聴取	地権者の合意形成・意見聴取（地主会、若手の会、懇話会等）*宜野湾市実施			
	市民の合意形成・意見聴取（NBミーティング、座談会、まち歩き等）*宜野湾市実施			
			ワークショップ	
情報発信	ホームページ（HP）の公開（適宜更新）			
	プロモーションビデオ（PV）放映			
	ワークショップ			
	県民フォーラム			
プロモーション ツールの制作	HP立上げ		HPリニューアル	HPコンテンツの作成
			英語パンフ作成	原風景模型 パンフ作成
			パネル作成	
	地形模型		地層模型	原風景模型
	PV制作	将来イメージを討議するためのVRを活用したPV制作		
	・「全体計画の中間取りまとめ」PV-普天間未来予想図	・中央エリア ⇒世界に誇れる環境づくり *地権者、市民等向け	・北側エリア ⇒歴史文化とコミュニティ *地権者、市民等向け	・南側エリア ⇒シマの基層と公園都市 *地権者、市民等向け

図IV-1 これまでの取組と今後の展開（1/2）

東京五輪  本土復帰 50年  大阪万博 

平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 (2020) 年度 令和 4 (2022) 年度 令和 7 (2025) 年度
計画内容の具体化に向けた取組			
		配置方針の更新	素案策定
計画づくりに ついて 地権者・市民の 意見聴取、気運 醸成	子どもたちや地権 者・県民・市民に体 験を通じて計画づ くりの周知、意見聴 取、気運醸成	県外へ向けて、体験 を通じて、計画づく りを広く周知、意見 聴取、気運醸成	揺るぎないまちづくりの考え方の 確立と周知、意見聴取、気運醸成 若い世代等、将来の普天間飛行場 跡地や沖縄の将来を担う人材の育 成
(地主会、若手の会、懇話会等) *宜野湾市実施			
(NBミーティング、座談会、まち歩き等) *宜野湾市実施			
絵画コンクール			若い世代の意識醸成
ホームページ (HP) の公開 (適宜更新)			
プロモーションビデオ (PV) 放映			
	体験イベント ・図書館イベント ・大型展示会へ の出展	体験イベント ・霞が関イベン トへの出展	PRキャラバン 県民フォーラム 体験イベント 50年イベント 万博イベント 若い世代を対象とし たアイデアコンペ
HPコンテンツの作成			
	シアター映像 VRによるまちまーい パネル作成 航空写真マット 作成 パンフ作成	シアター映像 VRによるまちまーい 普天間飛行場と山 手線の大きさ比較 航空写真マット作成	拡散型コンテ ンツ作成 公開 素案 パンフ作成 展示型コン テンツ作成
将来イメージを討議するためのVRを活用したPV制作			
<ul style="list-style-type: none"> ・緑の中の まちづくり ⇒緑の価値と街 への期待 *地権者、市民等 向け 	<ul style="list-style-type: none"> ・普天間飛行場の現状 と歴史 ・跡地利用による効果 ・緑の中のまちづくり ・暮らし方イメージ *県民、市民等向け (特に小中学生) 	<ul style="list-style-type: none"> ・みどりの中のまちづ くりの揺るぎない方向 性 ⇒シマの基層を最大限 活用 ⇒公民の境なくまち全 体に緑を創造 ⇒最先端技術を導入 *県民、市民等向け 	<ul style="list-style-type: none"> ・本土復帰 50 年 に向けた普天間 飛行場跡地利用 計画素案 PV の 作成 *県民、市民等向 け ・素案の 更新 *国内 外、県 民、市 民等向 け

図IV-2 これまでの取組と今後の展開 (2/2)

2. 跡地利用計画についてのイベント

普天間未来予想図体験イベントは、国の府省庁が開催する「こども霞が関見学デー」に、内閣府の催事の一環として出展し、普天間飛行場跡地利用についての合意形成・情報発信を行った。

(1) こども霞が関見学デー

「こども霞が関見学デー」は、子どもたちを対象に業務説明や職場見学等を行うことにより、親子のふれあいを深め、子どもたちが広く社会を知る体験活動の機会として、国の府省庁が平成12年から開催している。

(1) - 1 こども霞が関見学デープログラム概要

・府省庁の連携により、200以上のプログラムを展開

・内閣府実施プログラム例：

- 拉致問題を知って、考え、声のメッセージを送ろう！
- すごい！楽しい！サイエンス、イノベーション！
- 沖縄を感じよう！

（「普天間未来予想図体験イベント」は、内閣府の14のプログラムの内「沖縄を感じよう！」の一部としてブースを出展）

(2) 普天間未来予想図体験イベント

(2) - 1 合意形成・情報発信についての基本認識

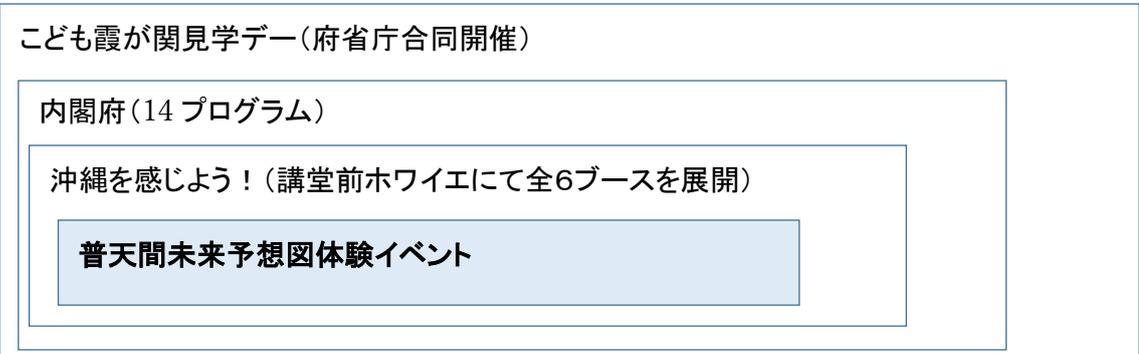
これまでは、県民・市民を主たるターゲットとして、合意形成・情報発信を展開しており、昨年度の体験型イベントにおいては、跡地利用に対する認知度の低さを認識した。

(2) - 2 普天間未来予想図体験イベントの目的

普天間飛行場の未来予想図を、本土復帰 50 年の節目（令和 4 年）に県内外に効果的に発信するため、県外での情報発信を展開し、ターゲット拡張を始動させる。
 また、内閣府で開催された「こども霞が関見学デー」に出展し、初めての県外での体験イベントを実施することにより、県内はもとより、県外においても、普天間飛行場の跡地利用についての適切な情報を積極的に発信し、気運醸成を図る。

(2) - 3 開催概要

- 【名称】：普天間未来予想図 体験イベント
 —イメージCGで未来の沖縄のまちを歩いてみよう！—
- 【日時】：令和元年8月7日（水）～8日（木） <2日間> 10：30～16：00
- 【場所】：内閣府 中央官庁合同庁舎8号館1階講堂前ホワイエ
 （東京都千代田区永田町1-6-1）
- 【位置づけ】：



図IV-3 館内の実施スペース（講堂前ホワイエ）

(2) - 4 展示内容

(2) - 4 - 1 展示のストーリー

普段、沖縄や普天間飛行場にあまり馴染みのない県外の人にも身近に感じてもらえるよう、東京と沖縄、山手線と普天間飛行場の比較やイメージCG体験を通じた展示内容とした

コンテンツ1 東京と沖縄をくらべてみよう！ (パネル)

自分たちが住んでいる身近な東京と普天間飛行場がある沖縄の2つを比べることで、まずは、普段あまり親しみのない沖縄の大きさと普天間飛行場の位置を理解してもらう。

「くらべてみよう！沖縄と東京」
沖縄本島と東京都の大きさを比べる



コンテンツ2 山手線の中に普天間飛行場をはめてみよう！ (パネル)

山手線の中に、普天間飛行場跡地があったら…。
普天間飛行場跡地の大きさを体験。

「東京の地図と普天間飛行場パーツ」
山手線とその中に立地する公園や主な施設をパネルにし、同縮尺の普天間飛行場のパーツを当てはめることで、普天間飛行場の大きさを実感してもらう。

Ex) 普天間飛行場は、秋葉原～四谷と同じ距離

「宜野湾市航空写真」
市街地にある普天間飛行場の航空写真を床に敷き、普天間飛行場周辺の現状を説明。



コンテンツ3 普天間飛行場跡地 過去・現在・未来 (映像)

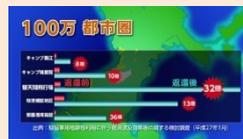
沖縄の自然や戦前の歴史を学び、将来的には、誰もが憧れるまちになる可能性があることを伝える。



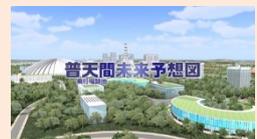
宜野湾の歴史



シマの基層



経済効果



未来のまち

コンテンツ4 イメージCGで未来の沖縄のまちを歩いてみよう！ (イメージCG)

イメージCGでまち歩きを体験できるコーナーとし、普天間飛行場跡地の未来のまちを体験してもらう。また、跡地利用における方針を説明するポップアップにより、具体的な計画内容を知ってもらう。



筆記アンケートと未来予想図投票 (シール貼り) による意見聴取

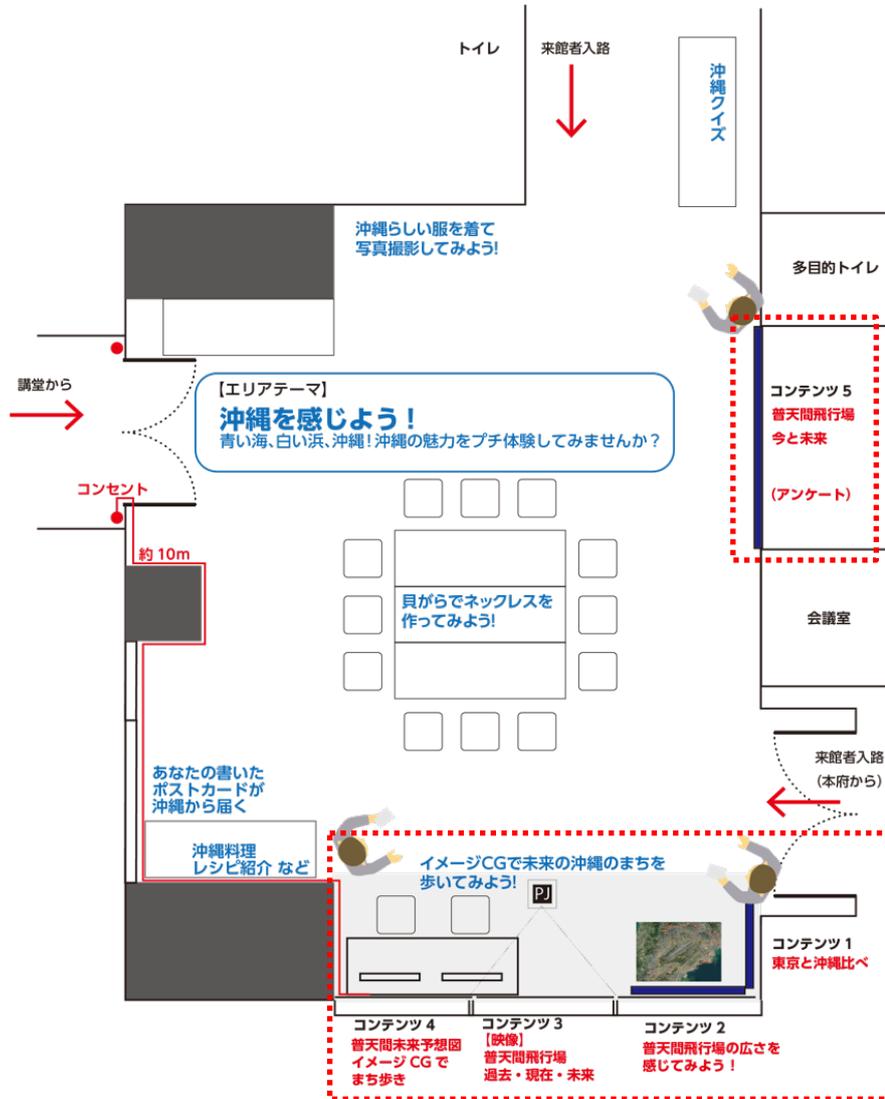
コンテンツ5 沖縄の未来で行ってみたいところは？ (パネル)

映像やイメージCGを通して、子どもたちが期待する普天間飛行場の未来のまちとはどんなところなのか、意見を聴取し、計画の参考とする。

「世界に誇れる緑の中のまちづくり」
 普天間未来予想図のイメージCGから“暮らしたくなるまち”“働きたくなるまち”“訪れたくなるまち”のそれぞれのシーンを提示。行ってみたいところにシールを貼付することで、意見を聴取する。

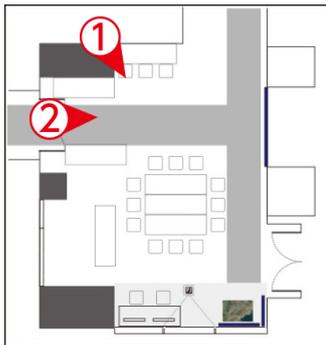


(2) - 4 - 2 ブースレイアウト (平面図)



図IV-4 イベント ブースレイアウト

(2) - 4 - 3 ブースレイアウト (イメージパース)



図IV-5 イベントブースパース

(2) - 5 周知方法

(2) - 5 - 1 文部科学省総合教育政策局地域学習推進課による周知



図IV-6 配布チラシ

内閣府

内閣府ホーム > 内閣府の政策 > その他の施策 > 令和元年度「子ども震が関見学デー」のお知らせ

令和元年度「子ども震が関見学デー」のお知らせ—開催の御案内と参加者の募集について—

「子ども震が関見学デー」は、親子のふれあいを深め、子どもたちが夏休みに広く社会を知る体験活動の機会とするとともに、政府の施策に対する理解を深めてもらうことを目的に、文部科学省を中心に各府省庁などが参加して実施しています。(参考:文部科学省「子ども震が関見学デー」ホームページ)

内閣府でも、子どもたちに内閣府の仕事をよく理解していただくために、下記のプログラムを実施しますので、ふるって御参加ください。

なお、プログラムについては、やむを得ない事情により内容が変更される場合もありますので、あらかじめ御了承ください。

[このページの先頭へ](#)

1. 実施日

- 令和元年8月7日(水) 10時30分～16時00分
- 令和元年8月8日(木) 10時30分～16時00分

[このページの先頭へ](#)

2. 実施対象

主に小学生、中学生(大人の引率が必要)

[このページ](#)

3. プログラム

○事前申込み不要なプログラム(当日、自由にご参加いただけます)

- いま、大人気の「eスポーツ」をやってみよう!楽しくプレイして、正しく知ろう!
- 体験型ゲームで防災を楽しく学ぼう!
- 沖縄を感じよう!
- 沖繩を創ろう!～「知財創造教育」ってなに?～
- 圖書「令和」を持って記念撮影!(注:本物でも国立公文書館のレプリカでもありません)
- 拉致問題を知って、考え、声のメッセージを送ろう!
- すざい!楽しい!サイエンス、イノベーション
- 求む!未来の理工系女子!
- 北方領土問題を考えよう!
- ブルーノのめり絵であそぼう!
- 日本の国際平和協力について学ぼう!
- マイナちゃんとマイナンバーについて学ぼう!

○事前申込みが必要なプログラム

・災害対策本部

・内閣府ホームページへの掲載など

・申込みを通じて、御提供いただいた個人情報については、「子ども震が関見学デー」に必要な範囲内でのみ利用し、「行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律」の規定に従い適正に取り扱います。

[このページの先頭へ](#)

7. 問い合わせ先

内閣府大臣官房政策評価広報課広報係
電話:03-5253-2111(内線31427)

内閣府大臣官房政策評価広報課報道室
電話:03-5253-2111(内線39420)

[このページの先頭へ](#)

ウェブアクセシビリティ サイトマップ

内閣府 | 〒100-8914 東京都千代田区永田町1-6-1
電話番号 03-5253-2111 (大代表)
内閣府法人番号 2000012010019

図IV-7 内閣府HP

(3) 開催報告

(3) - 1 来場者数及び実施の様子

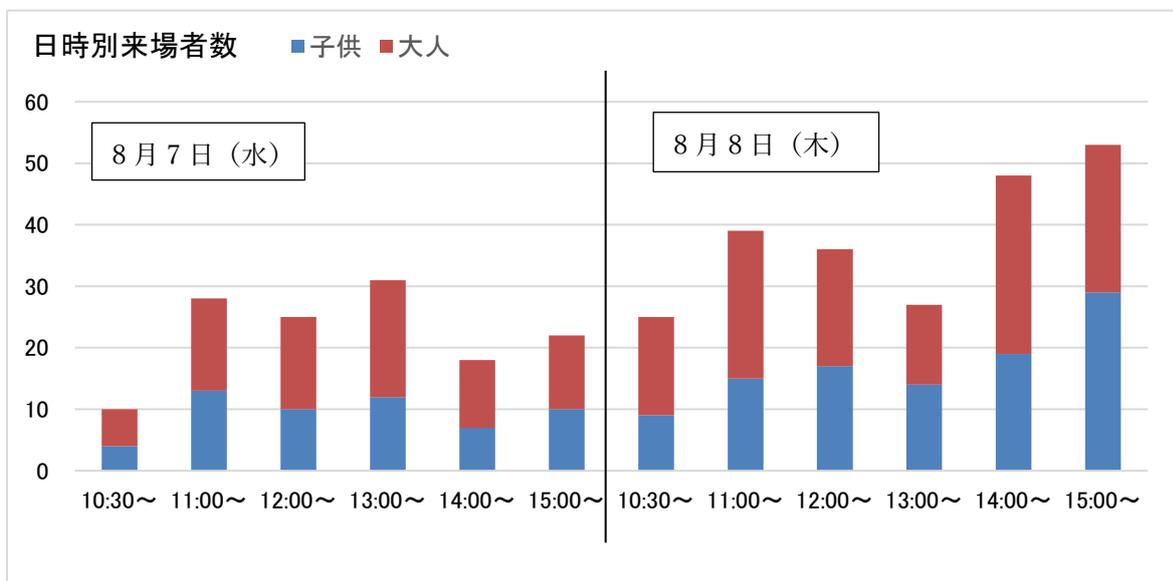
2日間の当ブース来場者数は、合計 362 名であった。子ども対象のイベントであったが、保護者・引率者・内閣府関係者等の大人の割合が多かった。

筆記アンケートについては、2日間で 148 票となっており、回収率約 40%を占めた。昨年度出展した「沖縄県トータルリビングショウ」のアンケート回収率約 7%と比較すると、高い回収率であった。

これは、子どもがイメージCG等を体験している間に、大人に普天間飛行場跡地及び展示の説明をし、アンケートの記入をお願いしたことが、多くの方がアンケートに回答した要因であると考えられる。

【イベント 日別・時間別来場者数及び筆記アンケート回収状況】

日程	2019.8.7(水)			2019.8.8(木)			合計		
	晴れ			晴れ			晴れ		
	子供	大人	計	子供	大人	計	子供	大人	計
10:30～	4	6	10	9	16	25	13	22	35
11:00～	13	15	28	15	24	39	28	39	67
12:00～	10	15	25	17	19	36	27	34	61
13:00～	12	19	31	14	13	27	26	32	58
14:00～	7	11	18	19	29	48	26	40	66
15:00～	10	12	22	29	24	53	39	36	75
ブース来場者	56	78	134	103	125	228	159	203	362
内閣府への来場者	251	226	477	409	319	728	660	545	1,205
来場率			28%			31%			30%
アンケート数			50			98			148



会場の様子

① 1日目：令和元年8月7日（水）



② 2日目：令和元年8月8日（木）

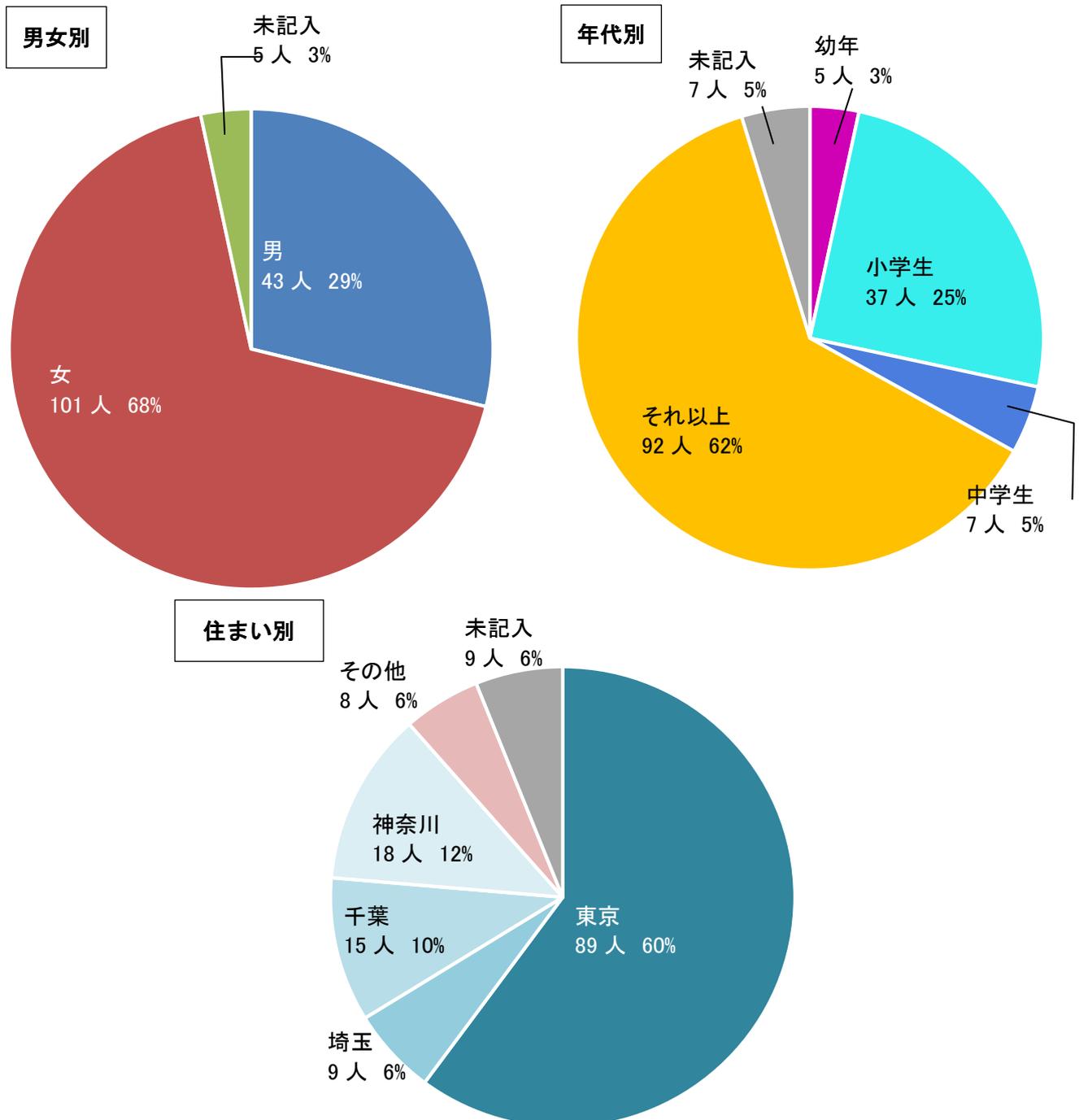


(3) - 2 アンケート結果

夏休みの子どもの対象としたイベントであったため、小学生と母親の組み合わせでの来訪が多く、主に保護者にアンケートの記入をお願いしたことから、女性の大人に多く回答をもらった。

また、霞が関の中央官庁が一斉に開催したイベントであること、平日開催であることなどの要因から、内閣府関係者などとみられる来場者も多く、沖縄の基地問題に関心を持つ人も多数見られた。

住まいに関しては、霞が関という立地上、来場者の約60%が東京都であり、埼玉県・千葉県・神奈川県を南関東を加えると約90%となった。



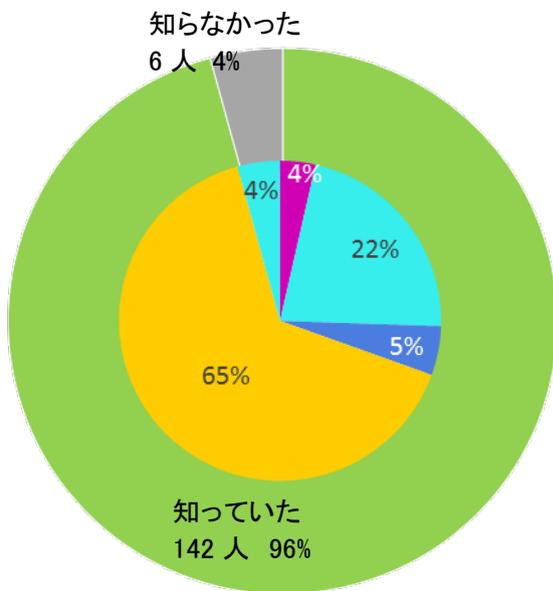
認知度についての設問

問1・2において、沖縄の米軍基地、普天間飛行場についての認知度を調査した。沖縄の米軍基地や普天間飛行場については90%以上の人を知っていたが、跡地の計画が検討されていることを知っている人は約15%以下であり、認知度の低さが伺えた。

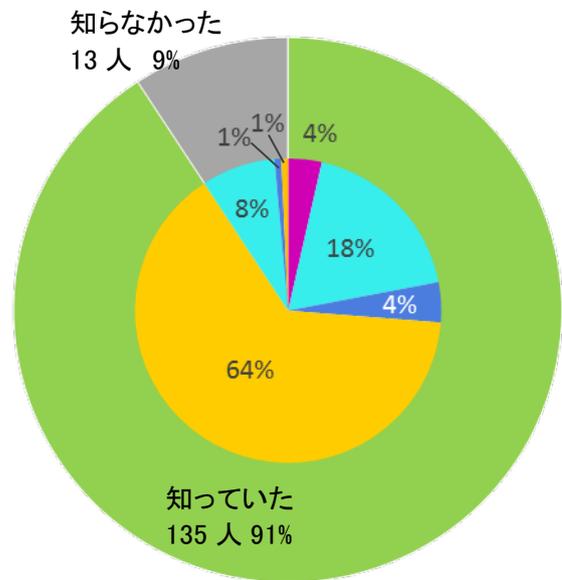
昨年度の「沖縄県トータルリビングショウ」では、約半数の人が跡地の計画が検討されていることを知っていたことから、県内外においては、跡地利用計画の認知度の格差があることが分かる。

このことから、県外における跡地利用計画の情報発信をより一層強化する必要があると考えられる。

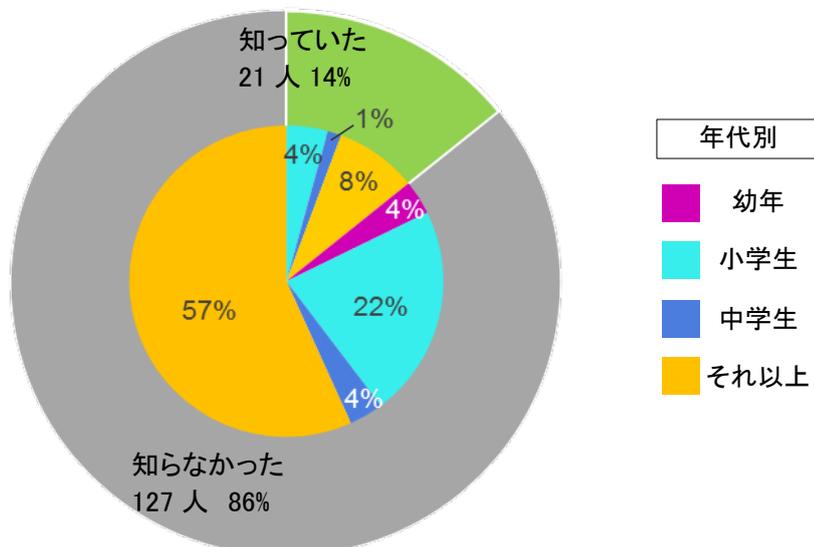
問1 沖縄に米軍基地があることを知っていましたか？



問2 普天間飛行場を知っていましたか？



問3 普天間飛行場の未来のまちを検討していること知っていましたか？



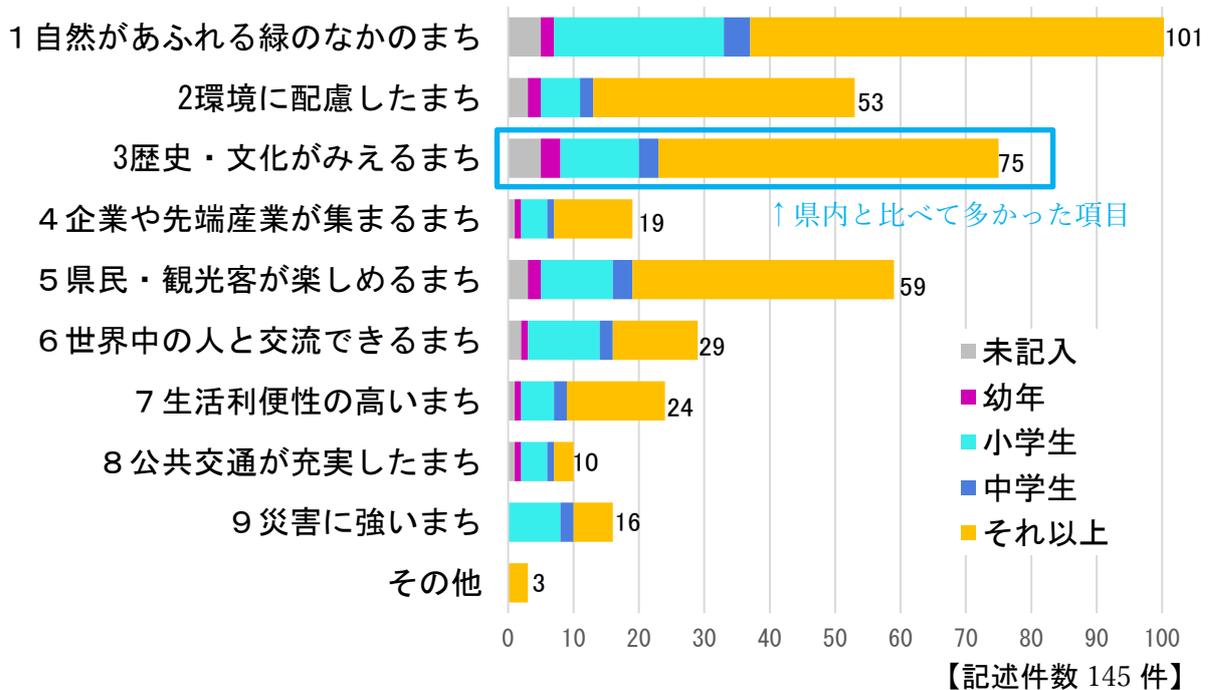
普天間飛行場跡地に求めるもの

問4 普天間飛行場跡地がどんなまちになったらいいと思いますか？（3つまで選択）

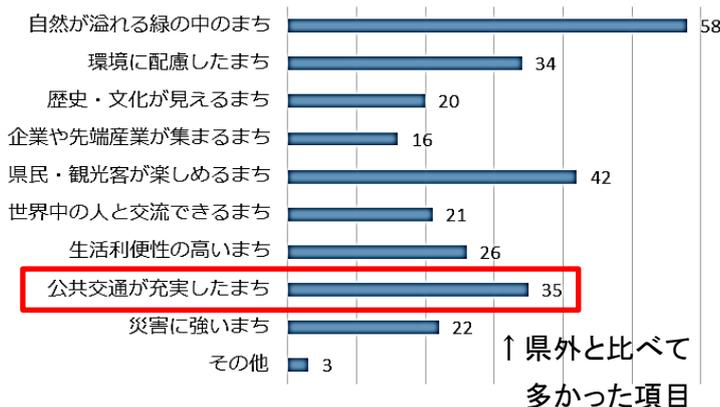
「自然が溢れる緑の中のまち」が最も多く、次いで「歴史・文化がみえるまち」「県民・観光客が楽しめるまち」となっている。

昨年度の「沖縄県トータルリビングショウ」での回答と比較すると、県内外ともに「緑の中のまち」「楽しめるまち」に関心が高いことが分かる。対して、「歴史・文化」「公共交通」について、県内外での関心の差が表れたが、県外の方は、沖縄の歴史・文化を求め、県内の方は、充実した公共交通を求めていることから、普段身の回りにないものを求めていることが分かる。

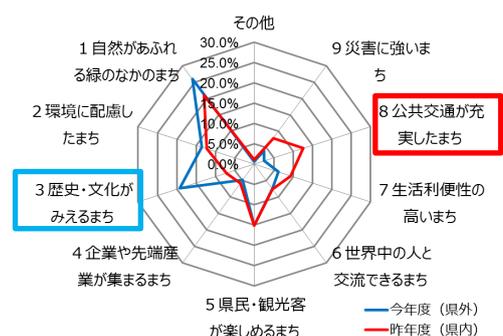
その他の記述としては、「自衛隊の基地として利用してほしい」「沖縄の経済発展のために利用してほしい」「公共施設、学校、大人用商業施設として利用してほしい」などの意見があった。



【参考】昨年度の沖縄県トータルリビングショウでのアンケート結果



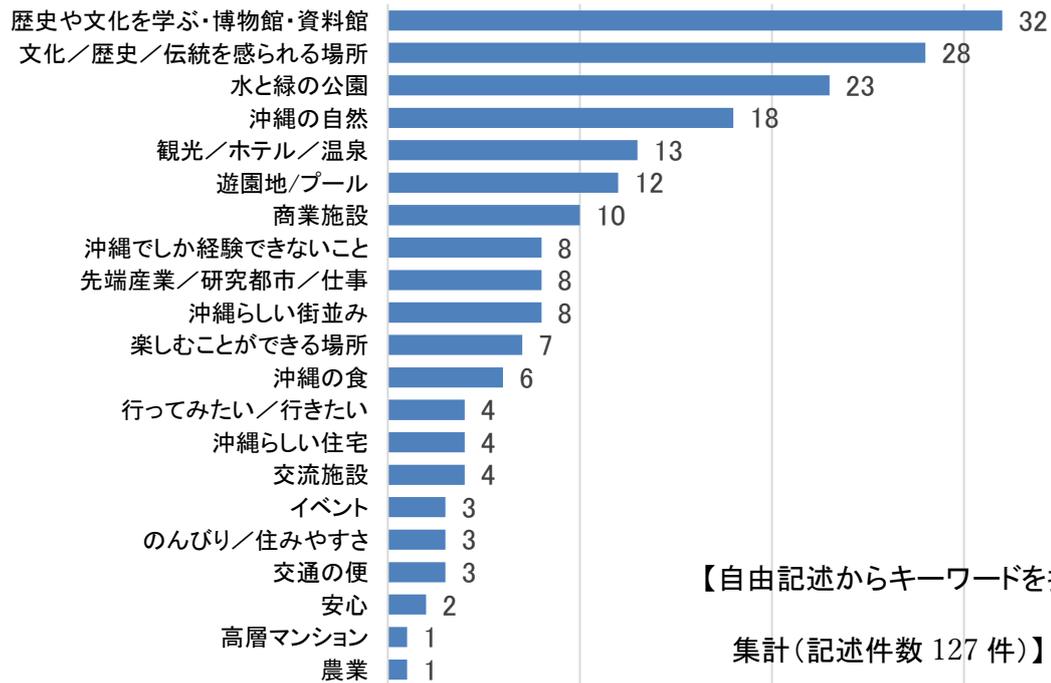
県外と県内の比較



問5 普天間飛行場跡地の未来に何があったら行ってみたいですか？（自由記述）

回答数の約半数（127件中60件）が、「沖縄の歴史や文化」について回答していることから、問4と同様に、県外の人にとっては、沖縄の歴史・文化に対する関心が高いことが分かる。

水と緑、ホテル、遊園地等のキーワードが多くあることから、歴史・文化と共に、沖縄の自然や楽しめる場所についての関心が高いことを示す結果となった。



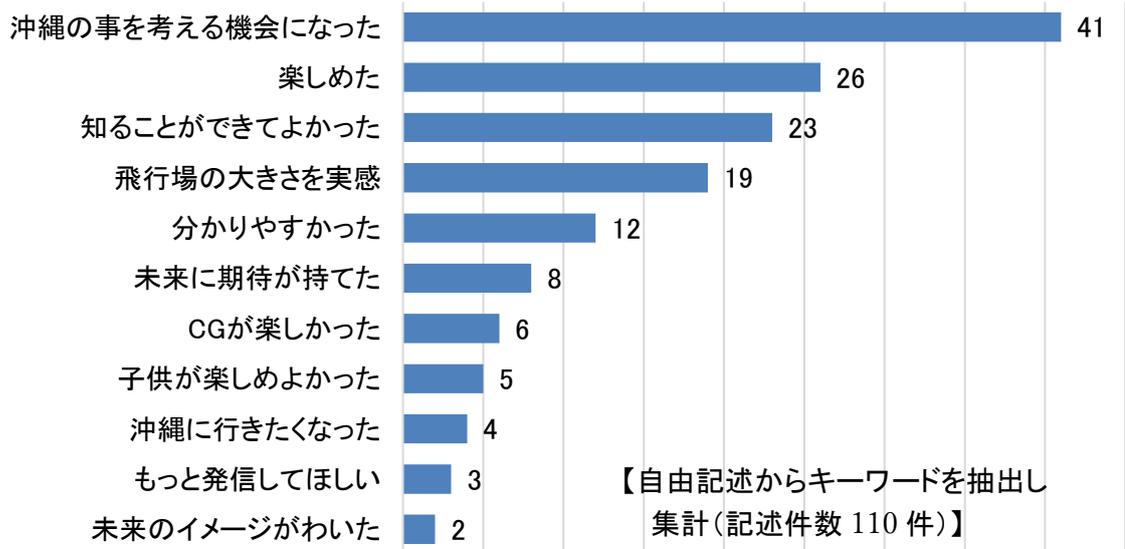
【特徴のあった意見】

- 何か発信性のあるまちに魅力を感じます。海外の人からも興味を持たれるまちとして、スポーツと文化と企業と教育が混ざっているといいです。
- 沖縄の文化、ウチナーグチや伝承の語りなどが聞ける文化施設。循環型の人が生きて経済が回る仕組みがどうなっていくか楽しみです。
- 自然を利用した住みやすい町で海から近いことを利用したレストランがある。また、沖縄らしさ（沖縄の伝統的な建物やシーサーなどの飾りがある）が活かされたまち
- 普天間飛行場跡地をそのまま残して（しばらくの間）体感できるとよいと思いました。
- 過去・現在・未来が楽しめる所
- 沖縄らしい自然にあふれながらも、何があったのか、どのような流れで現在に至るのか、そのようなものは歴史として残した方が、日本人が考える機会となって良いと思う。
- もし、沖縄に戦争の歴史がなかったら、沖縄に対するイメージはどのようなものだったろうかと時々考えます。戦争以前の沖縄が見たいです。

普天間未来予想図についての感想

問 6 今回のイベントの感想をご自由におかきください。(自由記述)

「沖縄のことを考える機会になった」「知ることができてよかった」「飛行場の大きさを実感した」などの意見が多かったことから、普天間飛行場や跡地利用についての興味・関心を引くきっかけになったことが伺える。



【特徴のあった意見】

- 遠い県のことにしてしまいがちで、知らないことばかりだったので、ためになりました。今後、目も耳も向けていきたいと思いました。
- 普天間返還についてはニュースで知っていても、その後どうしていくかについて問題があることを知らなかったです。もし、整備されたら行ってみたいと思いました。
- 私たちはニュースで発信されていることしか見聞きしないので、このようなイベントで実際の現状を知る事ができる（実際の普天間飛行場の大きさ）機会はとても良かった。
- 同じ日本の中のことですが、TVの中で起きていることのような感じであまり身近に考えることがないので、今回少しでも気にかけることができ、自分にも娘にも良い機会だったなと思います。
- 沖縄は今後ますます重要なメッセージのある場として存在感が増すと思いました。
- 基地の分布地図などがあると役立つのですが。
- 選挙では7割が辺野古沖の基地移設に反対していることが示されました。普天間基地が県民の為の場になることは良いことだと思いますが、辺野古基地のことがはっきり分かりません。7割もが反対している辺野古基地の工事を政府が強制的に進める意味が分かりません。辺野古基地に関するブースも作っていただきたい。政府こそ沖縄の「民意」を感じるべきだと思います。

沖縄の未来で行ってみたいところ

「コンテンツ5 沖縄の未来で行ってみたいところは？」で実施した、映像やイメージCGを通して期待する沖縄の未来のまちとはどんなところかのシール貼付数を集計した。

記述式アンケートの結果と比較して、イメージ画像付きアンケートでは、「住宅」「公園」「展望タワー」などの関心が高かった。具体的なイメージがあることで興味の方向が変わることが伺える。

	イメージのシーン	7日	8日	合計
●暮らしたくなるまち	海が見える高層マンション	12	7	19
	風通しがよい住宅	10	13	23
	沖縄らしい家	9	15	24
	緑の中の学校	4	5	9
●働きたくなるまち	最先端のオフィス	6	6	12
	研究施設	5	4	9
●訪れたくなるまち	沖縄の文化を体験できる公園	5	15	20
	沖縄の歴史を感じる街なみ	11	6	17
	昔からのわき水を活かした公園	8	9	17
	アリーナやスタジアムのイベント	7	5	12
	水と緑の公園	14	13	27
	まちを見わたせる展望タワー	10	14	24
	青空マーケット	2	4	6
	みんなが集まる公共施設	3	12	15
普天間飛行場について学べた		9	18	27
普天間飛行場について分からなかった		0	0	0

イベント終了時のシール添付状況



- 1日目
- 2日目

アンケート用紙

普天間未来予想図

飛行場跡地

体験イベント
アンケート

未来のまちについて考えよう!!

1) おきなわけん べいくんきち 沖縄県に米軍基地があることを知っていましたか？

1. 知っていた 2. 知らなかった 3. その他 ()

2) ふてんま 普天間飛行場を知っていましたか？

1. 知っていた 2. 知らなかった 3. その他 ()

3) ふてんま あとち けんとう 普天間飛行場跡地の未来のまちを検討していることを知っていましたか？

1. 知っていた 2. 知らなかった 3. その他 ()

4) ふてんま あとち 普天間飛行場跡地の未来のまちがどんなまちになったらいいと思いますか？
いいと思うものに○をつけてください。(3つまで) (お父さんお母さんといっしょに考えてみてください。)

- | | |
|------------------------------------|--|
| 1. 自然があふれる緑のなかのまち | 2. <small>かんきょう はいりよ</small> 環境に配慮したまち |
| 3. 歴史・文化がみえるまち | 4. <small>きぎょう せんたんさんぎょう</small> 企業や先端産業が集まるまち |
| 5. 県民・観光客が楽しめるまち | 6. 世界中の人と交流できるまち |
| 7. <small>りべんせい</small> 生活利便性の高いまち | 8. <small>こうつう じゅうじつ</small> 公共交通が充実したまち |
| 9. <small>さいがい</small> 災害に強いまち | |
| 10. その他 () | |

5) ふてんま あとち 普天間飛行場跡地の未来のまちに何があると行ってみたいと思いますか？

6) 今回のイベントの感想をご自由におかきください。

■ あなたについて教えてください。

1) せいべつ 性別は？ 男 ・ 女

2) ねんれい 年齢は？ ようちえん(ほいくえん)・小学校()年生・中学校()年生・それ以上

3) どうきょうと さいたまけん ちばけん かながわけん おきなわけん とうふけんめい お住まいは？ 東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県・沖縄県・その他(都道府県名:)

(4) まとめと今後の課題

(4) - 1 来場者の反応

- ・沖縄県と宜野湾市が普天間飛行場跡地利用に向けた計画づくりに取り組んでいることに多くの方が関心を示した。
- ・東京と沖縄の比較により、感覚的に沖縄や普天間飛行場について理解できたため、今後は沖縄や普天間飛行場の情報に対してより目を向けるようになるとの反応も伺えた。
- ・知らなかった、知って良かったという発言も多く、今後の普天間飛行場に関するニュースの見方が変わったという方もいた。

(4) - 2 意見聴取について

- ・子どもがCGイメージ体験をしている間に、随行の大人が展示を見たりアンケートに答えたりしてくれた。記入者の多くが自由記述を記入しており、跡地への関心を引くことができたと考えられる。
- ・初めて県外で開催する体験イベントであったが、自然・緑や歴史・文化、楽しめる場所についての関心が高く、特に歴史・文化については、県内と比較すると県外では高い関心があることが分かった。

(4) - 3 内容について

- ・CGイメージのまちあるき体験は、子供たちに人気であったが、隣接するブースの「貝殻でネックレスを作ってみよう！」を目当てに訪れていた子どもがより多かったため、子どもに対しては、集客の観点からすると「体験」や「ノベルティグッズ」が有効であることが分かった。
- ・宜野湾市の航空写真マットや山手線と普天間飛行場の大きさ比べを体験した人は、「ニュースでは何となく耳にしていたことが現実ではこんな状態になっているのか」「まったく知らなかった」など、今回のイベントに参加することで、普天間飛行場について新たな見方ができたことを発言した方も多くいた。
- ・普天間飛行場の過去・現在・未来の映像でシマの基層を見ている方からは、いままでイメージしていたこと以外の沖縄があることの声も聞かれた。
- ・ミニシーサーのペーパークラフトは、子どもや女性たちに人気があった。アンケート1件に対し、複数の子どもがいる場合は子ども数を渡していたこともあり、アンケートの参加が促進されたと考えられる。200枚程用意していたペーパークラフトは、完全配布した。

(4) - 4 今後の検討課題

普天間飛行場跡地利用計画についての情報発信が県外においても希薄であることはアンケート結果で明らかであるため、今後さらに県外に向けた情報発信を行っていく必要がある。

ニュースや新聞記事等の情報ではなく、イベントで体験する事により、感覚的に沖縄や普天間飛行場跡地を理解することで、今後、沖縄や普天間飛行場に関する情報に自発的に関心を寄せるきっかけになるという声もあったことから、県外において体験イベントを展開することは、有効な手段であると考えられる。

今回も10代～20代の若い世代を対象としたイベントではなかったことから、今後は若い世代を対象とした情報発信を検討する必要がある。

(5) 展示物

(5) - 1 展示コンテンツ

コンテンツ 1

東京と沖縄をくらべてみよう！

自分たちが住んでいる身近な東京と普天間飛行場がある沖縄。2つを比べることで、普天間飛行場に関心を湧かせる第一歩とする。

コーナー看板



①パネル (実寸サイズ : A0 版 841×1189mm)



コンテンツ2

山手線の中に普天間飛行場をはめてみよう！

山手線の中に、普天間飛行場跡地があったら…。
普天間飛行場跡地の大きさを体験。

コーナー看板



組み合わせ展示イメージ(各パーツ次ページ以降)

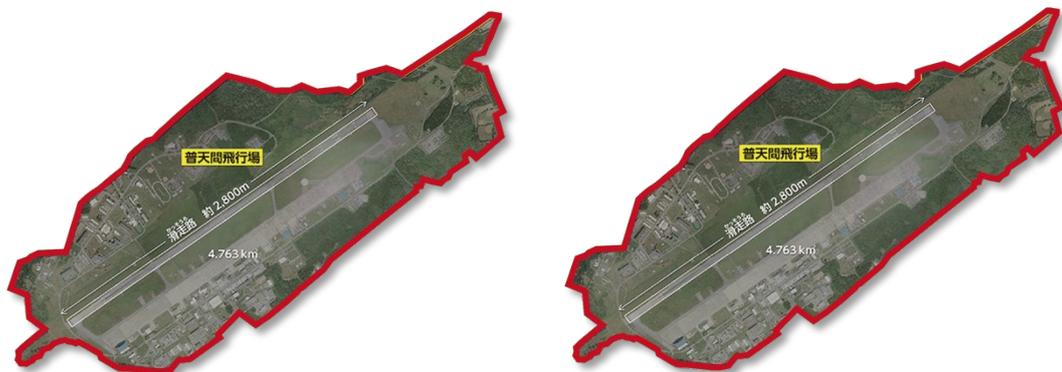


②宜野湾市航空写真マット（幅 1930×高さ 1420mm ターポリン幕）



③山手線圏内図と同宿尺の普天間飛行場パーツ 2枚

（幅 550×高さ 215mm スチレンボード貼り 型抜き）

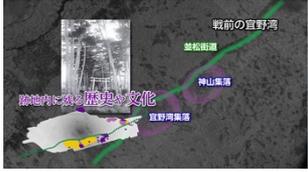


コンテンツ3

【映像】 普天間飛行場 過去・現在・未来（7分）

東京の学校では教えていないであろう沖縄の自然や戦前の歴史を学び、将来的には、誰もが憧れるまちになる可能性があることを伝える。

【映像台本】

cut	time	映像	ナレーション	出典 PV
01	4秒 /4秒			
02	17秒 /20秒		この地には、かつて集落がありました。緑の森があり、立派な琉球松が並ぶ並松街道が通り、家々が軒を連ね、人々の普通の暮らしがありました。	2014_No4 2015_No3
03	4秒 /24秒		役場や国民学校があり、生活の中心でした。	
04	6秒 /30秒		闘牛場や馬場もありました。	
05	10秒 /40秒		森の中には、先祖に祈るウタキや、産湯の水、祝い水、お清めの水を汲んだカーがありました。	
06	10秒 /50秒		これら歴史的文化遺産は、みんなの精神（こころ）のよりどころであり、コミュニティの中心でした。	
07	9秒 /59秒		米軍の基地になり、集落や暮らしは消えてしまいました。	
08	9秒 /1分8秒		戦後、基地の周りに移り住むことを余儀なくされ、いびつな都市になっていきます。	2014_No4

cut	time	映像	ナレーション	出典 PV
09	12 秒 /1 分 20 秒		一方、基地の中には、時間が止まったように、戦前の姿のままの森や、かつての暮らしの痕跡がまだ残されていたのです。	
10	2 秒 /1 分 22 秒			
11	16 秒 /1 分 38 秒		普天間飛行場の地下には、宜野湾に降る雨水が、琉球石灰岩層でろ過され、大山などから湧き出て西海岸へと流れる、水の道があります。	
12	7 秒 /1 分 45 秒		かつての宜野湾や神山の集落には、多くの湧水（カー）がありました。	
13	15 秒 /2 分 00 秒		生活用水としてはもとより、産湯や元旦に邪気を祓う若水などにも使われ、水がわき出るところは、暮らしの安寧を祈る場所として、集落には欠かせないものでした。	
14	7 秒 /2 分 07 秒		飛行場の滑走路あたりは、平らに見えますが、実際は起伏があり	
15	12 秒 /2 分 19 秒		北風を遮り冬は暖かく、夏は海風を取り込み、緑の空間を上手に配置することで、風の流れをつくるのが出来ます。	
16	10 秒 /2 分 29 秒		沖縄県と宜野湾市は、平成 24 年度に普天間飛行場の跡地利用の全体計画の中間取りまとめを策定し、	
17	16 秒 /2 分 45 秒		基地が返還され、まちがつながり、跡地を流れる地下水、地形、跡地に残る緑といった自然環境と歴史文化を活かした緑の中のまちづくりを提案しています。	

cut	time	映像	ナレーション	出典 PV
18	3 秒 /2 分 48 秒			
19	10 秒 /2 分 58 秒		普天間飛行場跡地がまちになること。それは、沖縄が発展する大きなチャンスです。	
20	12 秒 /3 分 10 秒		普天間飛行場跡地は、今後、返還が予定されている中南部の基地の中央に位置しています。	
21	10 秒 /3 分 20 秒		普天間飛行場跡地が、まちになると、これまで分断されていた中南部の100万都市圏がひとつにまとまります。	
22	12 秒 /3 分 32 秒		2015年1月に沖縄県が発表した予想によると、周辺の跡地利用とも連動して、大きな経済効果を生み出します。	
23	13 秒 /3 分 45 秒		これからも、普天間飛行場跡地利用の計画づくりに取り組んで参ります。普天間未来予想図は、みなさんのご意見でどんどん進化していきます。	
24	13 秒 /3 分 58 秒		これから、みなさんといっしょに、普天間飛行場の未来のまちを想像してみましょう。	2018年 シアター 映像から
25	13 秒 /4 分 11 秒		ここでは、地形や樹木、地下に流れている水、暮らしていた人たちの生活や知恵を活かした新しいまちをイメージしてみました。	
26	7 秒 /4 分 18 秒		タワーに登ってみましょう。展望台から、西海岸が見えてきました。	
27	9 秒 /4 分 27 秒		麓には池のある大きな公園。世界中から、たくさんの人たちが集まってきています。	

cut	time	映像	ナレーション	出典 PV
28	3秒 /4分30秒		ドームが見えてきました。	
29	5秒 /4分35秒		多くの人が集い 楽しそうにおしゃべりしています。	
30	4秒 /4分39秒		広場の水上ステージ	
31	7秒 /4分46秒		となりでは青空マーケットが開かれています。	
32	9秒 /4分55秒		ここは、 昔、琉球王国の王様も通った 琉球松の並木道をイメージしています。	
33	6秒 /5分01秒		歴史公園があります。 沖縄の文化を体験できます。	
34	12秒 /5分13秒		馬場公園があります。 昔このあたりにあった集落では、馬 を競わせたり、闘牛をしたり、そんな 風景をイメージした公園です。	
35	6秒 /5分19秒		地下の水の道にそって、小川が流 れています。	
36	10秒 /5分29秒		湧き水を活かした水辺の広場。 昔、集落の行事や生活で使われてい たカーを、残しています。	
37	5秒 /5分34秒		緑と水にあふれた未来のまちのイメ ージです。	

cut	time	映像	ナレーション	出典 PV
38	9 秒 /5 分 43 秒		涼しい風を送り出す木々の横には、石垣に囲われた、戸建て住宅。	
39	4 秒 /5 分 47 秒		こちらは、集合住宅。	
40	11 秒 /5 分 59 秒		住宅街を通り抜けると広場が見えてきました。 大きな災害の時には、みんなの避難場所にもなります。	
41	11 秒 /6 分 10 秒		心地良い風を取り込み、安全で安心して暮らせる未来のまちのイメージです。	
42	7 秒 /6 分 17 秒		未来のまちは、世界中から働く人が集まって来るまち。	
43	7 秒 /6 分 24 秒		働く場所の周りにも、沢山の緑があります。	
44	4 秒 /6 分 28 秒		学ぶ場所を見てみましょう。	
45	6 秒 /6 分 34 秒		世界中から学生が集まっています。	
46	10 秒 / 6 分 44 秒		楽しむ場所を覗いてみましょう。 屋上のプールからは海の眺めも楽しめそうです。	
47	16 秒 / 7 分 00 秒		世界中から人々が集まり、暮らし、働き、学び、楽しむそんな、普天間飛行場の未来のまち。 みなさんも、想像してみませんか。	

コンテンツ4

イメージで未来の沖縄のまちを歩いてみよう！

沖縄の新しいライフスタイルの紹介・イメージCG体験をすることで、返還後のライフスタイルを具体的にイメージしてもらう。

- ・未来の普天間飛行場跡地をイメージしたCGの中でまち歩きを体験できるコーナー（ジョイスティック操作）

コーナー看板



【コンテンツの内容】

- ① イメージCGの中から中央エリアを切り出して編集したコースを設定。5か所を目標地点として、ジョイスティック操作で視点を動かす。
- ② 目標地点を探すガイドは画面の地図と気球・宝石。
- ③ 目標地にたどり着くとアクション。
 - ③-1 子ども向け→クイズ（卓上シートに出題/回答あり）
 - ③-2 大人向け→画面に跡地利用計画の考え方等を示した説明文を表示

①コース設定



②目標を探す

地図をガイドに気球を目指して進む



近づくると宝石が出現



宝石の下までいくとアクション



③アクション クイズに答える



跡地利用計画の考え方を画面に表示



【跡地利用計画の考え方】

紹介場所/主旨	紹介文	画面
①歴史が見えるまちづくり「並松街道」	<p>普天間飛行場には、かつて琉球王国の国王が、普天満宮にお参りに通った琉球松の並木道（並松街道）がありました。この並松街道を再生するなど、昔からの沖縄の文化や歴史を感じさせるまちづくりを目指しています。</p> <p>ここでは、新しいまちの並松街道まわりをイメージしています。</p>	
②鉄道を想定したまちづくり「駅前広場」	<p>今、沖縄にはモノレールはありますが、鉄道は走っていません。未来のまちでは、みんなが便利に利用できる鉄道を通す構想があります。</p> <p>ここでは、たくさんの人でにぎわっている駅前広場をイメージしています。</p>	
③緑の中のまちづくり「大規模公園」	<p>新しいまちづくりでは、今ある緑を活かしつつ、新しい緑の空間を創りだし、緑がまちの価値や魅力を高める「緑の中のまち」を目指しています。</p> <p>ここでは、緑の中のまちづくりのシンボルとしての大規模公園をイメージしています。</p>	
④自然と歴史を活かしたまちづくり「メヌカー（湧き水）」	<p>沖縄では昔から、湧き水や洞穴など自然を生活の中に取り入れてきました。普天間飛行場内にも数多く残る自然・歴史資源を、新しいまちにも活かしていきます。</p> <p>ここでは、かつての集落にとって大切な湧き水であった「宜野湾メヌカー（湧き水）」を保全・活用した公園をイメージしています。</p>	
⑤みんなが集まり楽しむ場所づくり「交流広場」	<p>新しいまちづくりでは、まちに住む人たち、働く人たち、訪れる人たちなど、みんなが楽しく活動し、交流できる場所をたくさん創ろうと考えています。</p> <p>ここでは、人々が集まり楽しむ広場をイメージしています。</p>	

【クイズの設問と答え】

目的地にたどり着いたら、机上のクイズシートの設問を探す。

正解は、クイズシートの裏に表示。

クイズシート



【表】設問



【裏】正解

【会場内における用ノベルティ】

のぼり：2本



風船：15個



※PR用ノベルティは、
昨年度作成したものを流用

【配布物】

アンケート回答者に配布

ミニシーサーのペーパークラフト（5種：全200枚）

製造元：内閣府沖縄総合事務局 地域資源活用プログラム事業計画認定事業者



普天間未来予想図クリアファイル



同封物

- 普天間飛行場航空写真
- 普天間飛行場のこと
- 普天間飛行場 ここはどんなところ？
- 模型でわかる地形と緑を活かした集落のようす
- 模型でわかる昔の集落のようす 旧宜野湾集落
- 模型でわかる昔の集落のようす 旧神山集落
- 原風景模型パンフレット

3. VRを活用した普天間飛行場跡地利用における将来イメージの制作

(1) VR（バーチャルリアリティ）の制作

(1) - 1 VR制作の意義と目的

(1) - 1 - 1 意義と目的

跡地利用の全体的なレビュー、県民、地権者、関係機関等とのイメージ共有並びに意見集約、行政協議や各種プレゼンテーションなど、本計画の具体化を効率的・継続的に支援することを目的とし、跡地利用計画のまちづくり将来イメージを中心とした汎用三次元デジタル空間である「多機能バーチャルリアリティ（VR）」コンテンツを制作する。

(1) - 1 - 2 VR活用方法

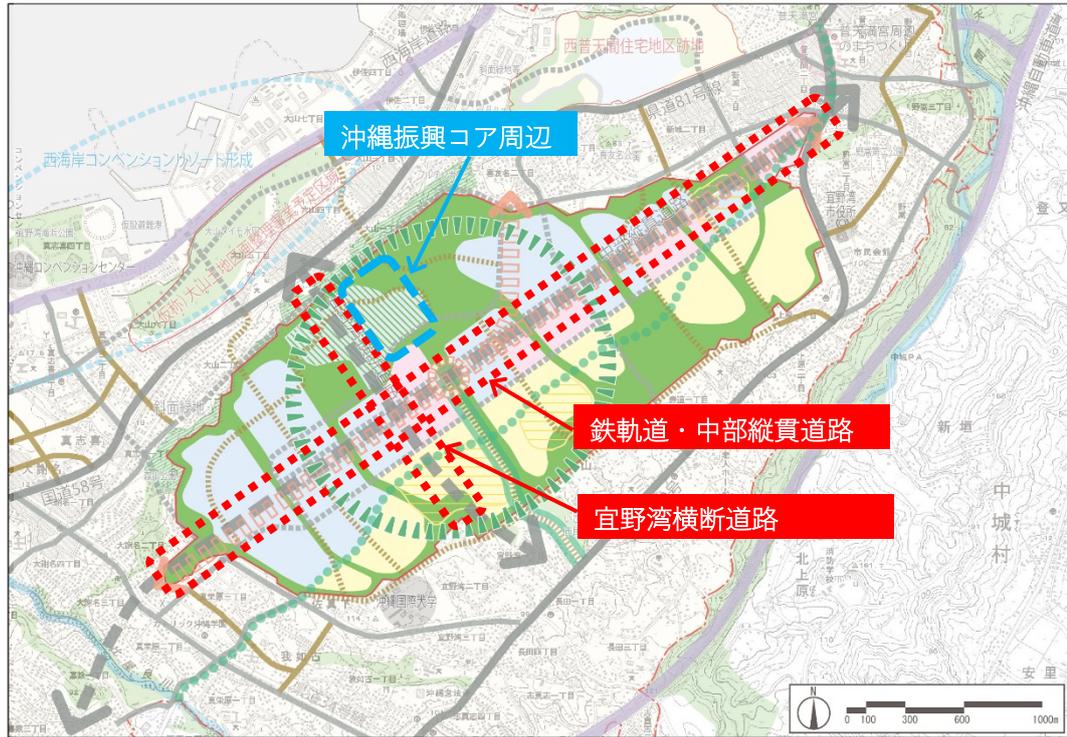
柔軟に更新できるVRの特徴を踏まえ、普天間飛行場跡地利用計画においてのVR活用方法を以下に整理する。

- ・プロジェクト関係者間でのイメージ共有
- ・市民や地権者との合意形成
- ・プロジェクトにおける効果的な運用・計画上のマネジメントに活用

(1) - 1 - 3 今年度のVR制作(更新)のねらい

過年度制作したVRをベースに、以下の視点で更新する。

- ・鉄軌道、広域幹線道路（中部縦貫道路・宜野湾横断道路）のパターンを複数制作し、鉄軌道・広域幹線道路のクリティカルポイントを示すことで、計画の具体化に向けた議論のたたき台とする。
- ・みどりの中のまちづくりのシンボルとなる沖縄振興コア周辺において、「沖縄振興の舞台となる『みどりの中のまちづくり』」「環境の豊かさが持続するまちづくり」を可視化し、そのイメージを県民・市民・地権者等で共有する。



図IV－8 VR更新位置

(1) - 2 鉄軌道・広域幹線道路のVR

(1) - 2 - 1 鉄軌道・広域幹線道路のVR制作の考え方

本年度のVRでは、掘割式・高架式の鉄軌道の構造の変化により、中部縦貫道路と宜野湾横断道路との交差形状、周辺街区への影響等を可視化し、公共交通ネットワークのクリティカルポイントを比較できるように制作した。

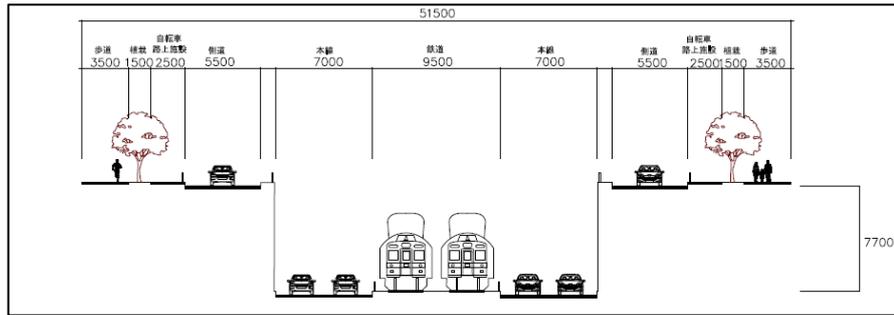
(1) - 2 - 2 鉄軌道・広域幹線道路のVR制作の留意事項

過年度の検討及び沖縄県検討等を踏まえ、鉄軌道・広域幹線道路のVR制作上の留意事項を以下に整理した。

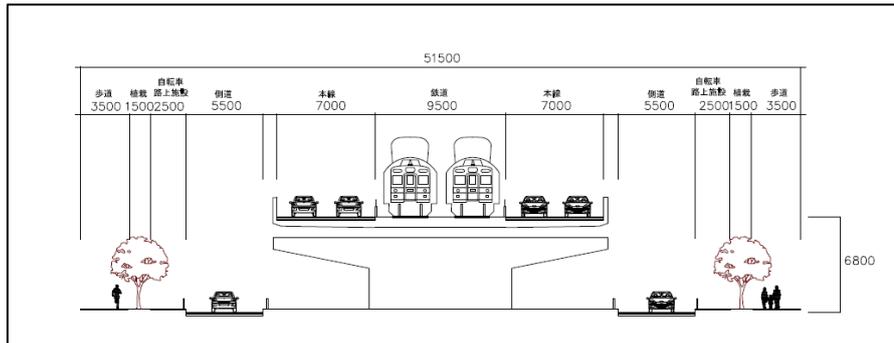
- ・鉄軌道、広域幹線道路（中部縦貫道路・宜野湾横断道路）の交差部等、鉄軌道の構造の差異による影響を明確化し、比較可能なものとする。
- ・鉄軌道と中部縦貫道路は一体型
- ・中部縦貫道路は、掘割式と高架式の2パターンを想定
- ・宜野湾横断道路は、平面式

(1) - 2 - 3 鉄軌道・広域幹線道路のVRの活用方法

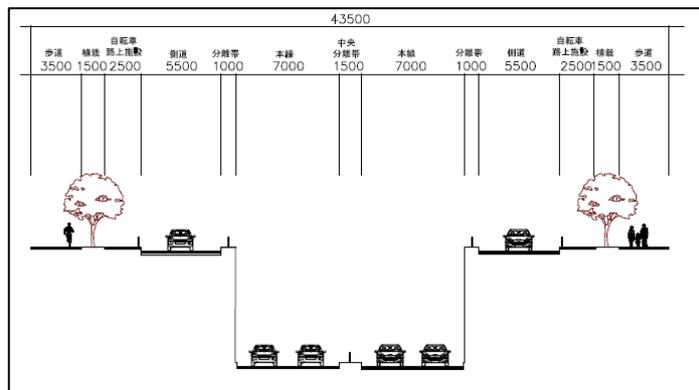
鉄軌道・中部縦貫道路を一体型とし、掘割式・高架式の2案VRを制作することで、有識者検討会議や関係部局等との調整・イメージ共有を図るツールとして活用する。



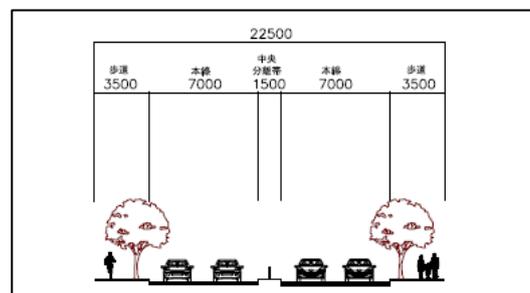
鉄軌道・中部縦貫道路標準横断面図（掘割式）



鉄軌道・中部縦貫道路標準横断面図（高架式）



中部縦貫道路標準横断面図（掘割式-鉄道分離区間）



宜野湾横断道路標準横断面図

図IV-9 鉄軌道・広域幹線道路標準横断面図



掘割式 - 1



高架式 - 1



掘割式 - 2



高架式 - 2



掘割式 - 3



高架式 - 3



掘割式 - 4



高架式 - 4

図IV-10 鉄軌道・広域幹線道路イメージ図

(1) - 3 沖縄振興コア周辺のVR

(1) - 3 - 1 沖縄振興コア周辺のVR制作の考え方

沖縄振興コアは、目指すべき跡地の将来像「世界に誇れる優れた環境の創造 ～みどり（歴史・緑・地形・水）の中のまちづくり～」を象徴する沖縄振興に向けたシンボル空間である。沖縄振興コア周辺のVRは、跡地の将来像を具現化するための揺るぎないまちづくりの方向性を踏まえ、民有地におけるみどりのあり方やシマの基層の活用方法、最先端技術を活用した建物のあり方等の実現イメージを体現する視点で制作した。

(1) - 3 - 2 沖縄振興コア周辺のVR制作の留意事項

沖縄振興コア周辺のVR制作上の留意事項は以下のとおりである。

①環境の豊かさの持続イメージ ～自然環境資源(水)を活用した省エネルギー化～

- ・ 宜野湾の特徴である水を活用してその効果により断熱し、建物内の温度を一定にする他、周辺との温度差を生じさせ、温度差による風を作り出す。
- ・ 屋根に設置した太陽光パネルで作成したエネルギーにより水を汲み上げ、建物の壁面や周辺で活用。
- ・ 汲み上げた地下水は、駅北側に位置する池への流入（地表では小川を形成）を想定し、池周辺に配置する。
- ・ 用途は、カフェを併設した資料館と仮定。

②最先端技術の導入イメージ

～再生可能エネルギー(太陽光)を活用した省エネルギー化～

- ・ 再生可能エネルギーを積極的に利用する「低炭素なまち」を印象付ける。
- ・ 太陽光パネルを建物の屋根・外壁に多用し、太陽の位置によってパネルの向きが変化することで、効率的な太陽光発電が可能。
- ・ 災害時等の際に優先的にエネルギー供給が必要な公共施設が集積する駅周辺エリアに近接した場所に配置する。
- ・ 用途は、エネルギー研究施設と仮定。

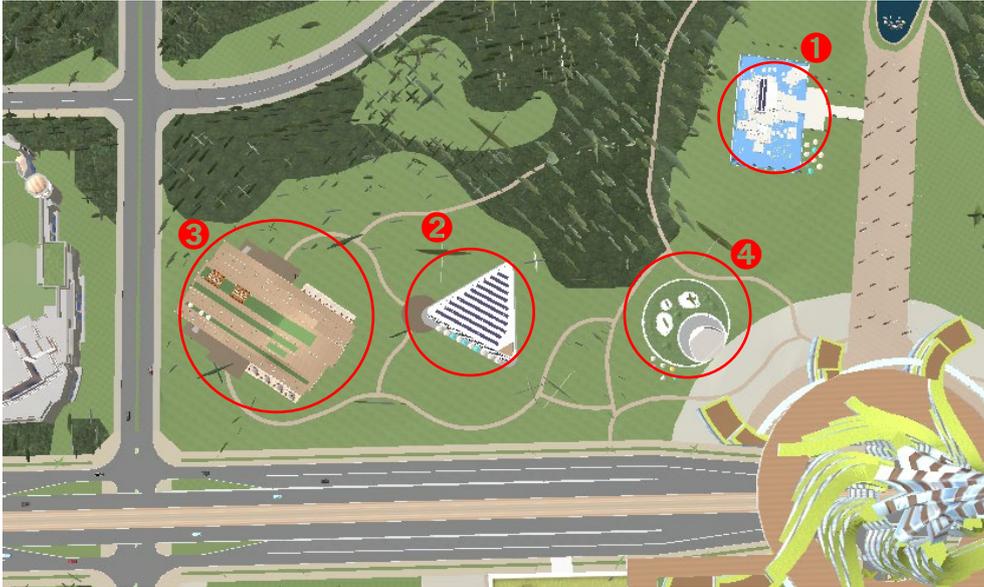
③アジア蒸暑地域のモデルとなる省エネルギー(低炭素)型建物イメージ

～日陰の創出・屋上緑化による断熱効率の向上～

- ・ 強い日差しを遮蔽するための庇を設け、かつ屋上緑化とすることで、沖縄の環境に配慮したデザイン。
- ・ アリーナ等の集客施設に隣接した場所に配置し、集客の相乗効果を図る。
- ・ 用途は、ショッピングモールと仮定。

④機能融合による付加価値向上イメージ ～歴史資源(鍾乳洞)と緑地空間の融合～

- ・ 宜野湾の特徴である地下の鍾乳洞へ続き、鍾乳洞を観光資源として活用。
- ・ 屋根部分を緑化することで公園としての利用を可能とし、かつ建物を貫通するように樹木を配置することで、建物と緑の融合を印象づける。
- ・ 観光施設であるため、多くの人が集まる駅周辺に配置する。
- ・ 用途は、観光施設を仮定。



図IV-11 沖縄振興コア周辺平面図

(1) - 3 - 3 沖縄振興コア周辺のVRの活用方法

民有地でのみどりの活用や最新技術を導入した建物のあり方をVRで可視化し、PVに活用することにより、「沖縄振興の舞台となる『みどりの中のまちづくり』」「環境の豊かさが持続するまちづくり」を象徴的に示し、県民・市民・地権者等とイメージの共有を図る。

①環境の豊かさの持続イメージ ～自然環境資源(水)を活用した省エネルギー化～



屋根に太陽光パネルを設置し、自然エネルギーを利用して地下水を汲み上げる



親水空間形成や建物周辺や建物内の温度を下げるために、地下水を活用

②最先端技術の導入イメージ

～再生可能エネルギー(太陽光)を活用した省エネルギー化～



太陽光パネルを屋根・外壁全面に配置し、太陽の方向によってパネルの向きが変化することで、効率的に太陽光発電、災害時には周辺の公共施設に優先的にエネルギーを供給



③アジア蒸暑地域のモデルとなる省エネルギー(低炭素)型建物イメージ

～日陰の創出・屋上緑化による断熱効率の向上～



建物の屋上部分をウッドデッキ・緑地とすることで、にぎわい空間の創出・建物の断熱



強い日差しを遮蔽する庇を設け、沖縄の環境に配慮したデザイン

④機能融合による付加価値向上イメージ ～歴史資源(鍾乳洞)と緑地空間の融合～

屋上緑化により、公園としての利用が可能



建物を貫通するように樹木が植え、建物と緑の融合をイメージ



普天間の特徴である鍾乳洞をイメージした建物で、地下空間へと繋がる

図IV-12 沖縄振興コア周辺イメージ図

(2) P V (プロモーションビデオ) の制作

(2) - 1 P V制作の意義と目的

(2) - 1 - 1 意義と目的

普天間飛行場跡地利用における将来イメージの検討内容をプロモーションビデオとして制作し、地権者、市民、県民に向けて情報発信を行い、跡地利用の気運醸成ツールとして活用するとともに意見聴取ツールとしても活用することを目的とする。

(2) - 1 - 2 P Vの活用方法

P Vは多くの地権者、市民、県民へ情報発信することが重要と考え、地元の字ごとの郷友会、地主会、普天間飛行場の跡地利用を考える若手の会、ねたてのまちベースミーティングなど積極的に活動されている団体の会合等で見ていただく機会を設けて、意見を聴取する。また、県のホームページ内の動画チャンネルに格納することで、さらに広く地権者、市民、県民のみなさんに見ていただくとともに、計画案づくりに関心を持ってもらえるようにする。

(2) - 1 - 3 今年度のP V制作のねらい

以下の視点でP Vを制作する。

- ・「全体計画の中間取りまとめ」以降の配置方針・配置方針図の更新に至る検討経過と、「揺るぎないまちづくりの方向性」を示すことで、世界に誇れる付加価値の高いまちを創造することを伝える。
- ・「揺るぎないまちづくりの方向性」の要点である「シマの基層を最大限活用すること」「公共民間の枠を超えて、まち全体で緑を創造すること」「最先端技術を導入したまちづくりを行うこと」を示す。

(2) - 2 P V制作の考え方

(2) - 2 - 1 検討経過

○アジアにおける普天間飛行場跡地の立地特性や先行返還地等の周辺動向、県民・市民の意見等を踏まえた検討



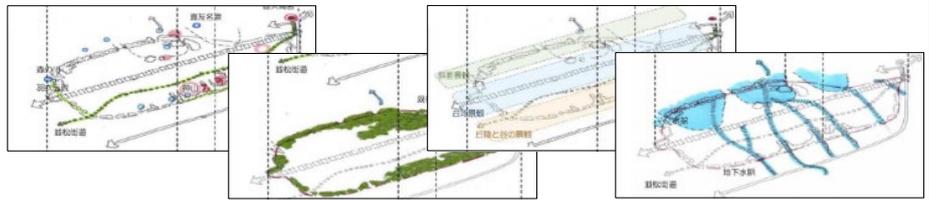
○土地利用ゾーン・緑地空間・交通網の配置方針を更新



(2) - 2 - 2 揺るぎないまちづくりの方向性

○跡地の自然環境

(緑・地形・水)と
歴史資源を最大限に
活用したまちづくり



○公共・民間枠を超え
て、まち全体で緑・
オープンスペースを
創造



○公民連携手法や最
先端技術を導入
し、環境の豊かさ
が持続するまちづ
くりを推進



普天間飛行場の価値や先進性が高まり、質の高い暮らしが実現可能なまちづくりを推進する。

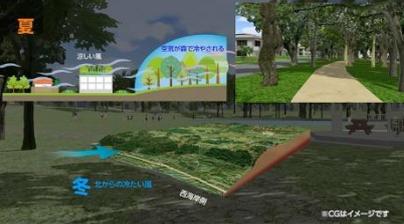
(2) - 2 - 3 映像の構成

No	TIME	訴求点	コメント	映像イメージ
1. プロローグ				
01	5秒/ 5秒		はいたいぐすーよー ちゅうがなびら	
02	22秒/ 27秒	文明の進化と弊害	人類は、地球の資源をベースにして、長い時間をかけて進化し、社会を築いてきました。 工業化社会になってからは、進化のスピードは急激に速まります。 わずか200年の間に、私たちの生活は便利になり、富と繁栄を築いてきましたが	
03	13秒/ 40秒		同時に 自然破壊、温室効果ガス排出、気候変動など 地球を脅かす危機的な環境問題を抱えることになりました。	
04	6秒/ 46秒	新しい時代に向けての視座	これからの社会はどこに進めばいいのでしょうか。	
05	11秒/ 57秒		自然の力を活かし、持続的に共生するためにはどうしたらいいか、 人々が平和で快適に生きるためにはどうすればいいか、	

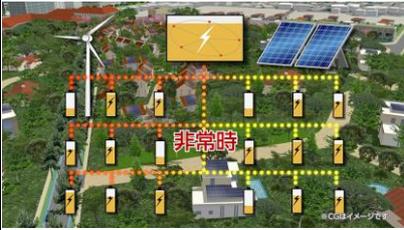
No	TIME	訴求点	コメント	映像イメージ
06	6秒/ 1分3秒		今、世界中で考え、動き出しています。	
2. 普天間飛行場跡地利用計画づくりの変遷				
07	13秒/ 1分16秒	計画づくりの経緯	このような時代に向かって進んでいく、転換期に 普天間飛行場跡地だからこそできるまちづくりとは、どのようなことでしょうか。	
08	10秒/ 1分26秒		2013年に 普天間飛行場跡地利用計画策定に向けた「全体計画の中間取りまとめ」を公表しました。	
09	24秒/ 1分50秒	シマの基層がベース	その検討のなかで、 ・長い年月をかけて造られてきた地形や地質 ・沖縄の気候がもたらした木々の生命力や地下の水脈 ・この自然環境の中で育まれた文化や暮らしの歴史 これらを活かすことをベースに	
10	30秒/ 2分20秒	中間取りまとめのポイント	・沖縄中南部を南北につなぐ交通網 ・宜野湾市を東西につなぐ道路 ・人々が集まりにぎわうゾーン ・産業や経済を活性化させるゾーン ・沖縄の文化と気候を活かし周辺のまちとつながる居住ゾーン これらを今残っている緑と新たに創り出す緑で繋ぎ合わせ	

No	TIME	訴求点	コメント	映像イメージ
11	10 秒/ 2 分 30 秒		普天間飛行場跡地が沖縄の中心になることをめざして、計画づくりをはじめています。	
12	12 秒/ 2 分 42 秒		その後も、 県民・市民・地権者の皆さんと 意見交換を続け、随時、計画を更新 しています。	
13	5 秒/ 2 分 47 秒	更新の過程 アジアへの広がり	沖縄の玄関口とのアクセスを活かし 普天間飛行場跡地が、	
14	10 秒/ 2 分 57 秒		アジア全体の活性化をうながす経済 発展の中心になるよう検討を進めて います。	
15	9 秒/ 3 分 06 秒	アクセス	県内はもとより、 世界中からここに集まる人たちが、 活動しやすい快適なまちになるよう に、	
16	6 秒/ 3 分 12 秒		幹線道路や鉄軌道の検討が進められ ています。	

No	TIME	訴求点	コメント	映像イメージ
17	16 秒/ 3 分 28 秒	土地利用	<p>「全体計画の中間取りまとめ」では、使い方で3つに分けていたゾーンの考え方をさらに深め、</p> <p>振興拠点ゾーンにより具体的な拠点を検討しています。</p>	
18	12 秒/ 3 分 40 秒		<p>西普天間住宅地区跡地で進んでいる「沖縄健康医療拠点」などの周辺とのつながりをもたせた学術研究拠点、</p>	
19	14 秒/ 3 分 54 秒		<p>アクセスのよさ、公園や緑、都市機能も合わせ持ち、オフィスやホテルなど、沖縄県の新たな業務拠点となる国際ビジネス拠点、</p>	
20	8 秒/ 4 分 02 秒		<p>駅周辺や跡地周辺を含めた防災を支援する広域行政機能バックアップ拠点</p>	
21	13 秒/ 4 分 15 秒	沖縄振興コア	<p>また、みどりの中のまちづくりのシンボルとして、沖縄振興の拠点となる【沖縄振興コア】の検討も進めています。</p>	

No	TIME	訴求点	コメント	映像イメージ
22	11 秒/ 4 分 26 秒		ここで働き、暮らし、訪れる人たちが、多様なライフスタイルを選べるまちをイメージしてみました。	
23	18 秒/ 4 分 44 秒	コミュニティへの配慮	跡地に残る歴史や文化を伝え、沖縄らしいコミュニティづくりや地域一帯の防災も考えた緑のネットワークでつながる公園や空間に多様な人々が集まるまちをイメージしています。	
3. 「みどりの中のまちづくり」				
24	16 秒/ 5 分 00 秒	考え方	こうした計画づくりの中でも、最も期待されているのがみんなで、まち全体を、つくり、育てていく「みどりの中のまちづくり」です。	
25	15 秒/ 5 分 15 秒	緑	蒸し暑い夏は、木陰をつくり、涼しい風を吹かせ、 冬には、吹き上げる風から生活を守ってきた沖縄の木々。	 
26	15 秒/ 5 分 30 秒	水	琉球石灰岩層で濾過された雨(あま)水が、地下を流れ、生活用水や集いの場・祈りの場として、地域の暮らしと心を支えてきた湧き水。	

No	TIME	訴求点	コメント	映像イメージ
27	15秒/ 5分45秒	シマの基層と最先端技術の融合	このように琉球王国の時代のまちづくりでも巧みに取り入れられてきた「緑と水と歴史を活かしたまち」の考え方を、最先端技術と組み合わせながら、	
28	8秒/ 5分53秒		持続可能なまちづくりにつなげていくのが「みどりの中のまちづくり」です。	
29	15秒/ 6分08秒	公民一体	景観の美しさはもちろんのこと、住宅、建物、街並み、公園、などまち全体が「みどりの中のまち」になると、土地の価値や快適性が高まります。	
30	12秒/ 6分20秒		市民のみなさん 企業 行政がひとつになって「みどりの中のまち」をつくり、育てることを目指しましょう。	
4. 普天間未来予想図				
31	14秒/ 6分34秒	最先端技術を活用したまちの価値向上	最先端技術を取り入れた「みどりの中のまち」は、例えば…屋上緑化や涼しい風を取り入れるなど、緑を活かした工夫をしたり、	
32	5秒/ 6分39秒		太陽光を電気に変え、省エネに貢献したり、	

No	TIME	訴求点	コメント	映像イメージ
33	6 秒/ 6 分 45 秒		雨水や地下水を循環させ、涼しさを作り出したり…	
34	7 秒/ 6 分 52 秒		一年中、省エネで快適な暮らしを送ることができるまちです。	
35	21 秒/ 7 分 13 秒		まち全体で協力すれば、風力発電や太陽光パネルなどで創った電気を貯めておき、使う量にあわせて、電力を必要ところに回したり、台風や地震などの災害時には非常用電源に切り替えることもできます。	
36	14 秒/ 7 分 27 秒		このように、みんなで力を合わせて、まち全体に最先端技術を取り入れ、環境を守りながら、質の高い暮らしを実現していきましょう。	
5. エンディング				
37	29 秒/ 7 分 56 秒	まとめ 揺るぎない方向性の強調	普天間飛行場跡地にできる未来のまちは、自然・歴史・文化に支えられながら、その時々、技術や社会の変化を柔軟にとりいれる「ここだからこそできる」魅力あふれる街を目指しています。快適で、環境の豊かさが持続する平和な「みどりの中のまち」には世界の注目が集まります。	

No	TIME	訴求点	コメント	映像イメージ
38	14秒/ 8分10秒	まちの価値の向上	世界を牽引し、質の高い暮らしを実現できるこの地で生まれ、育ち、学び、働く人々が、誇りと希望を持って暮らせるまち。	
39	7秒/ 8分17秒	締めコメント	そんな 普天間飛行場跡地の未来を これからもみんなで考えていきましょう。	
40	3秒/ 8分20秒		いっぺーにふえ〜 でーびたん	
41	5秒/ 8分25秒			

4. ホームページの更新

本節では、今年度実施したホームページの更新内容について整理し、今後の展開について述べる。

(1) コンテンツの更新

PV、イベントの報告など新たなコンテンツを順次格納し、サイトのアップデートを行い、地権者、県民・市民に情報発信の充実を図った。

更新項目は、以下のとおりである。

【更新項目】

- ・ イベント開催報告（「こども霞が関見学デー」への出展）
- ・ 緑の中のまちづくり（海外先進事例視察報告）

(1) - 1 イベントの開催報告

8月にブース出展した国の府省庁が開催する「こども霞が関見学デー」の開催結果を会場風景、展示内容、来場者属性、アンケート集計結果を抜粋して、来場された方や初めて見る方にも概略がつかめるようにまとめた。

① イベント開催報告ページ



8月に国の府省庁が開催する「子ども霞が関見学デー」に出展したことを紹介

子ども霞が関見学デー
令和元年8月7日(水)~8月8日(木)

「子ども霞が関見学デー」とは、子どもたちを対象に業務説明や職場見学等を行うことにより、親子のふれあいを求め子どもたちが広く社会を知る体験活動の機会として国の府省庁が平成12年から開催しています。

たくさんの親子連れが来てくれたよ!

職場見学に訪れた親子連れがたくさん集まりました。

東京の地図に普天間飛行場をはじめてみたよ。普天間飛行場の大きさにビックリ!

将来どんなまちになってほしいかを考えたよ。

イメージCG(VR)で未来のまちを自由に歩いてみたよ。

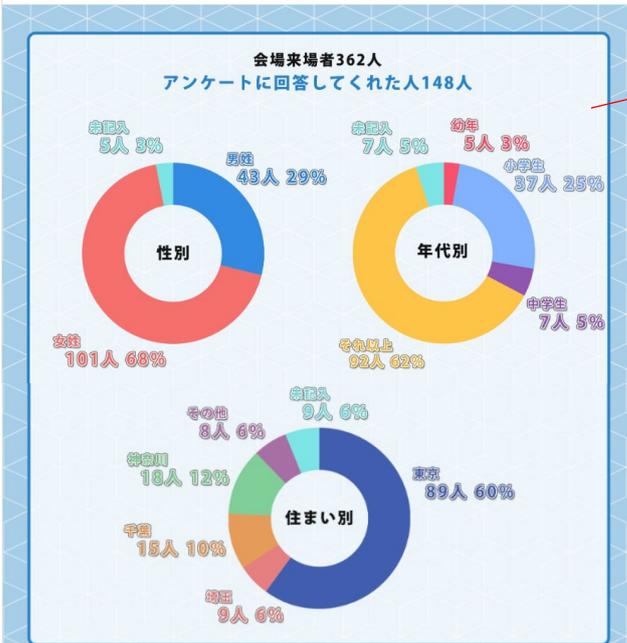
シアターで未来のまちのイメージを見たよ。

みなさんにご覧いただいたパネルはこちらでご覧いただけます。

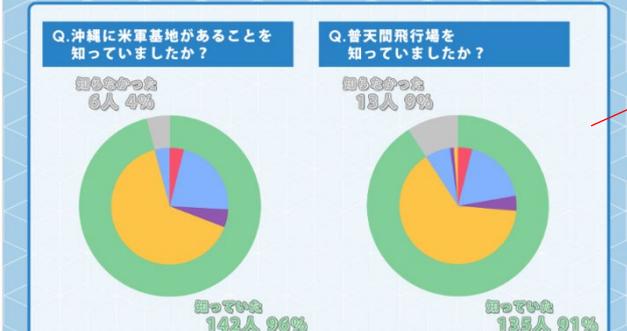
[パネルを見る](#)

「子ども霞が関見学デー」の概要を紹介
イベントの展示内容や会場の風景を写真で分かりやすく掲載

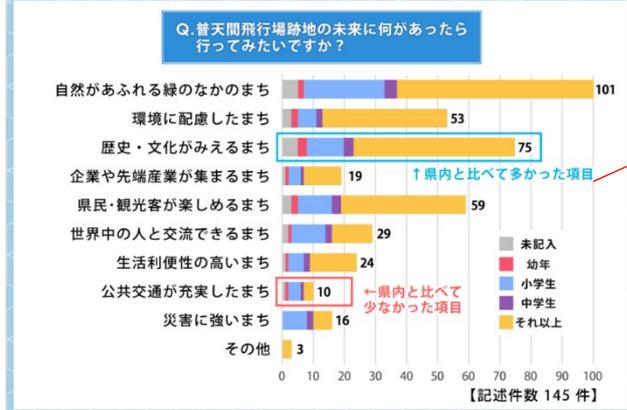
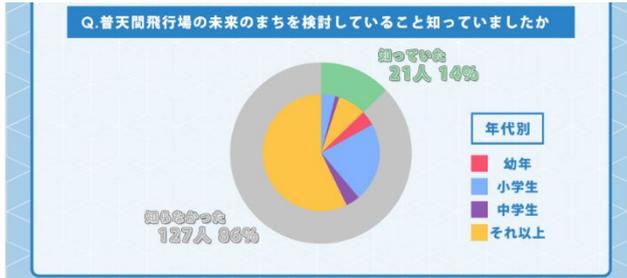
展示したパネルが閲覧可能なページのリンクを掲載



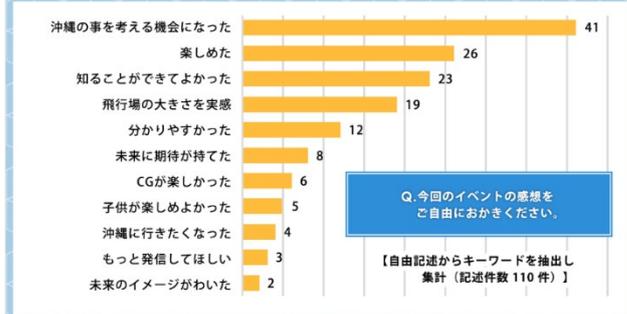
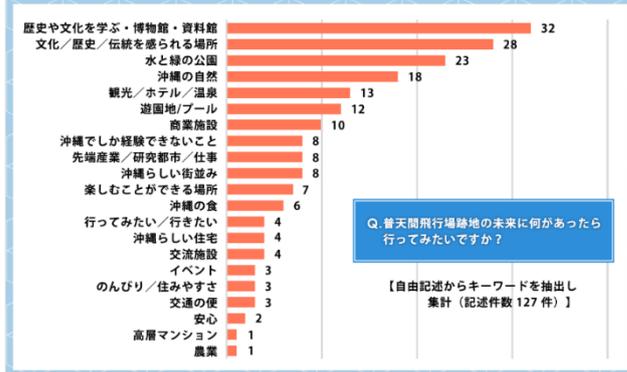
来場者の属性を性別、年代、居住地で紹介



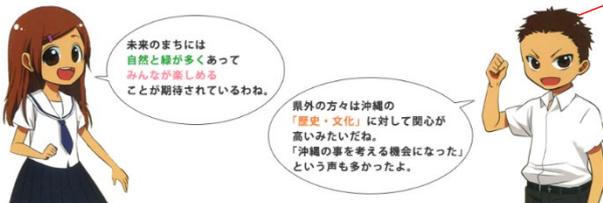
会場内で実施したアンケート調査（普天間飛行場の存在、跡地利用に向けた取組の認知）の結果を回答者の年代別に紹介



会場内で実施したアンケート調査（普天間飛行場跡地に期待すること、イベントの感想等）の結果を紹介



キャラクターのコメントにより、アンケート結果のまとめを紹介



過去のイベントはこちら

宜野湾市民図書館 開催イベント
トータルリビングショウ 開催イベント

② 展示パネルの掲載ページ



パネルをクリックすることで、拡大画像を表示



普天間飛行場パーツを自由に動かせるようにすることで、大きさを比較することが可能

赤枠で囲まれた「普天間飛行場」は、動かして大きさを比べることができます。



[普天間未来予想図2019 トップに戻る](#)

(1) - 2 緑の中のまちづくり（海外先進事例視察）

「緑の中のまちづくり」ページの中の新たなリンクボタンを設置し、海外先進事例の紹介ページを新設した。

今年度の視察先であるドイツのまちづくりについて、「豊かな自然環境と産業振興拠点が融合するまちづくり」と「医療・教育・産業振興拠点、リサーチパークやスマートシティ等が形成されているまちづくり」の視点で捉え、跡地利用計画で導入が求められる基盤整備、仕組み等について写真を中心に分かりやすく紹介するページとした。

「緑の中のまち」事例のひとつ。

ドイツ

沖縄県全体の産業振興をけん引する振興拠点ゾーンの形成に向け、2つのポイント

- 豊かな自然環境と産業振興拠点が融合
- 医療・教育・産業振興拠点・リサーチパークやスマートシティ等が形成

を「みどりのまちづくり」の先進国でみてきました。



●フライブルク市

★環境都市として世界的に名を上げている「グリーンシティ」

ヴォーバン地区

自然あふれる緑のあるまち

- 地形や既存の建物、あるいはすでに存在する緑生や樹木をできるかぎり保存し、そうした既存対象物を主軸とした住宅地開発を目指す。
- 後背の山地からの冷気を地区内に取り込むための「風の道」を複数配置。
- 「住宅地内の庭や公園、街路樹」「建物における屋上緑化や壁面緑化」「既存の緑生や地形を利用した住宅地周辺の緑地」などは、できるかぎり在来種を優先し、緑生の遷移をうまく活用することで、小さくても多様な自然を住宅地内に取り込むようにしている。
- 住宅地に降る雨水は、できる限り住宅地内の緑地に浸透させる配慮をし、平屋根には屋上緑化を義務化するなどして雨水が一度に住宅地から吐き出されないことを目指している。
- 住宅地内の緑化と既存の緑をつなぎ、緑のネットワークを形成。



道路や公共交通

- 「カーフリー（カーポートフリー）」をコンセプトに、公共交通の積極利用による車移動に頼らない地域づくりを推進。
- 居住者は、その土地に駐車場を設置することを禁じられている。居住者はその車を地区内数カ所に設置された立体駐車場に駐車し、家までは徒歩または自転車で移動している。この道路は「遊びの道路」と指定されていて、日常的に子どもたちが遊ぶことが前提とされ、安全が最優先されている。
- 地区中央部に公共交通（LRT、バス）路線（地区内3駅）を整備し、中心市街地への移動を容易とする。



環境に配慮したまち

- ヴォーバン地区の住まいは、すべて集合住宅であり、間伐材や木のつかないような木材を森でそのままチップにし、エネルギー源として給湯や暖房に供給できるコージェネレーションシステム（※1）を導入している。市内の消費電力の半分を提供している。

※1 ガスタービンやディーゼルエンジンで発電する一方、その排気ガスの排熱を利用して給湯・空調などの熱需要をまかなうエネルギー効率運用システム。



訪れた都市の位置を掲載

地区の概要について、写真を多く用いることで分かりやすく紹介

リーゼルフェルト地区

道路や公共交通

- 公共交通 (LRT) を住宅開発より先行して実施し、公共交通利用を促すまちづくりを推進。(公共交通指向型 (TOD) 開発)
- 町の中心を横断する形で市道の踏切が新設され、400m間隔で停留場を設置することによって、住民は長くても400m歩くだけで停留場に過ぎ、その後、市内中心部までは市道を使って15分で行けるので、自動車よりも短い時間で駅心アクセスすることができる。



自然あふれる緑のあるまち

- 地区内の大部分を景観保護地域に指定するとともに、住宅街区にも「風の道」や街区中央部に市民農園 (クラインガルテン) 等を配置。
- 景観保護地域内では、「森の幼稚園 (自然の中での幼児教育を行う運動や団体の名称)」が活動。
- 住宅地内の緑化と既存の緑をつなぎ、緑のネットワークを形成。



ミュンヘン市の滞在型市民農園 (クラインガルテン)

自然あふれる緑のあるまち

- ミュンヘン市では、滞在型市民農園 (クラインガルテン) 及び市民農園があり、有機栽培の野菜などの栽培から収穫まで市民が利用できる施設がある。



オリンピックパーク

人が集まり、賑わうまち

- オリンピックパーク (Olympiapark) は、1972年のミュンヘンオリンピックの会場となったところで、スタジアム及びホールは、コンサートやイベント等で現在も使用されている。公園内には、本施設以外にもOlympia Eisportzentrum (スケート場) やOlympia Schwimmhalle (プール) などスポーツ関連の施設がある。



「緑の中のまち」事例のひとつ。 [動画で見る](#) **シンガポール**

「緑の中のまち」事例のひとつ。 [フォト・レポート](#) **オーストラリア**

「緑の中のまちづくり」 [トップに戻る](#)

●ミュンヘン市

リーム地区

■景観公園

自然あふれる緑のあるまち

- リーム地区の南側には、200haの「景観公園」が整備されている。「風の道」が考慮され、この景観公園から地区内側の住宅地等に新鮮な空気が流れるようになっている。
- 2005年には、ここで「新しい都市地区の持続可能な発展」をテーマにThe National Garden Festivalが開催された。公園には、地下水を利用した10haの人工湖があり、市民の憩いの空間となっている。



■新ミュンヘン国際見本市会場

人が集まり、賑わうまち

- 新ミュンヘン国際見本市会場では、年約30の国際的なメッセを開催しており、毎年90カ国以上より3万社以上の出展社及び約180カ国より200万人以上の来場者が参加している。
- 旧リーム空港跡地に建設されたこの見本市会場は、屋内ホールのみならず、屋外展示場にも水道・電気・通信などの最新のインフラを整備しており、ホール内は柱の無い構造で展示の自由度の高い幅広い展示スペースを提供している。



環境に配慮したまち

- 建設地面積の約17%が緑化されており、雨水の再利用システム、ソーラー発電システム (ホール1-1B5の屋根部分)、食料のデポジット制、回収ごみの選別プラントなど、環境に最大限に配慮した最新設備を備えている。



■選構を活用した公園・緑地

- リーム空港当時の管制塔を始め、複数の選構についてリノベーションや現状保存を実施。



(2) 今後の展開

今年度までに毎年コンテンツの更新を行いながら、中身の充実を図ってきた。現状のサイトで見られるコンテンツは以下のとおりである。

- ・動画で見る普天間未来予想図（中間取りまとめ）
- ・未来のまちVR（動画）
「中央エリア」「北側エリア」「南側エリア」
- ・緑の中のまちづくり（海外事例動画もあり）
- ・模型で見る昔の風景（字宜野湾・字神山まちなまーい体験報告含む）
- ・ゆめのあるぎのわんみらい（児童生徒絵画コンクール受賞作ギャラリー）
- ・県民の声（地権者、市民の活動紹介、体験イベント紹介、絵画コンクール紹介、跡地利用計画提案コンペ受賞作紹介）
- ・中南部都市圏駐留軍用地跡地利用広域構想
- ・跡地利用に伴う経済効果
- ・関連リンク
- ・中間取りまとめ（英語版）



ホームページでは、中間取りまとめのポイントやこれまで作成してきた未来のまちイメージVR、さらには県民・市民の声等、跡地利用に関する様々な取組を分かりやすく発信している。

過年度に実施した体験イベントのアンケート結果等から、県民・市民が普天間飛行場跡地利用に関する取組内容について十分に認識しているとはいえない状況にあると考えられる。そのため、イベント開催時にホームページの情報を掲載したノベルティグッズを配布する等の広報活動を行うとともに、コンテンツの更なる充実を図っていくことで、県民・市民・地権者を中心に本ホームページの存在を周知する必要がある。